憧れのガレージライフをこの手に!

GT-Rの棲み家

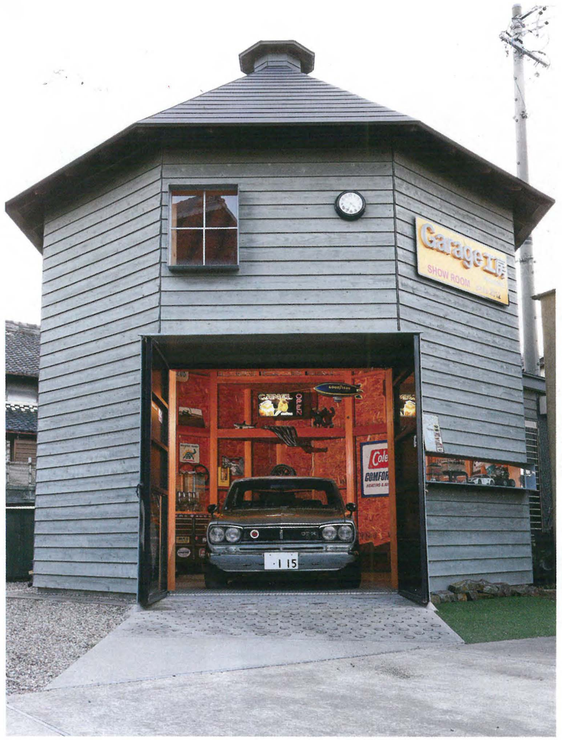
匠Special

モデルガレージハウスのある建築のプロを尋ね、
建てる心構えを知る「匠Special」も3回目。
今回訪れたのは、愛知県半田市の『岩橋建築』。
取材班を待っていたのは八角形のガレージ。
見た目は奇抜だが、中身はプロの技術が満載だ

文:山崎真一(本誌)　写真:澤田優樹

岩橋建築

計算され尽くした八角形 技術と夢が詰った男の城



これまで見たことのないせいたかノッポなガレージ。7mの全高は熱だまりを上に作り、クルマへの温度変化を抑える役割がある。天井の中央にあるのが換気口だ。木造の在来工法で製作している

ガレージは仕事の活力源 家族の理解で初めて成立

「クルマを愛し、クルマを感じる男のガレージハウス」がコンセプト。愛知県半田市に拠点を構え、知多半島エリアを中心に地元密着の家作りを行う工務店『岩橋建築』。

新築やリフォームなどが業務の柱だが、代表の岩橋和雄氏は「日本一クルマ好きな大工」と名乗り、愛車のGT-R(KPGC10)をこよなく愛する無類のクルマ好き。ガレージハウス/ビルトインガレージを手掛けるのは自然な流れだ。

また、本社の敷地内には八角形の個性的なモデルガレージハウスが併設。7mの全高は周りの住宅よりも高く、遠くからもよく目立つ。そして、ガレージを開けると中からGT-Rが登場。ガレージハウスは岩橋建築のアイコンとなっている。でも、なぜ八角形なのだろうか?

「作業時間や行程は別として、最小限の土地で使いやすいガレージハウスを作るには理想の形です。八角形は入口が狭くても、室内左右の空間は広く取れ、ドアの開閉も楽です。扉を大きくしないで済むので、コストも抑えられます」と岩橋代表。

天井を高く取ったのは熱だまりをなるべく上に上げるため。そして、天井中央には空気抜きを設けて、中の熱気を外に逃がしている。

「熱い空気は上に集まるものです。天井高を上げれば上げるほど、下まで熱が降りにくくなりますよね。これによって、内装や樹脂パーツの傷みの原因となるクルマの温度変化を極力抑えることができます。また、左右の張りに電柱用ワイヤーを使ったことで、7mの高さが生む圧倒的な空間を味わうことができます」

奇抜なだけでなく、ガレージハウスとして計算され尽くした設計。このモデルハウスには見る者をワクワクさせる驚きと建築屋の最高峰の技術と夢が詰め込まれている。

そんなクルマ好きの気持ちを持つ建築のプロである岩橋代表にガレージハウス作りの心構えをうかがった。

「ガレージハウスは仕事への活力源、帰ってきたときのモチベーションを保てる場所などどのような存在であるかは人それぞれですが、クルマ好きの旦那さまのご褒美であることは間違いありません。一生に一度の大きな買い物ですから、まずはクルマのレストアと同じようにゆっくり考えて、作ってほしいと思います」

もう一つ大事なのが、家族の理解。「ガレージハウスは趣味の世界なので、予算を考えたとき、真っ先に省かれる部分。雨風を凌ぐだけならカーポート、シャッターを付けて保管したいのなら多くのメーカーが販売する外付け車庫もあり、家の中にクルマを入れるガレージハウスはやはりハードルが高いと思います」

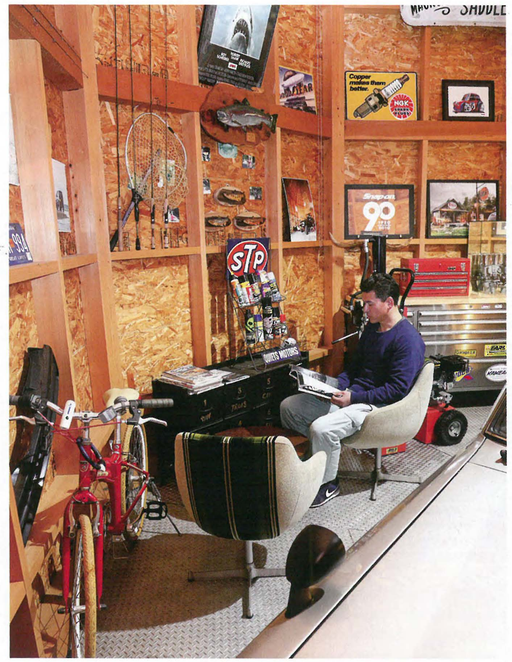
予算が潤沢なら別だが、ガレージハウスを建てたいのなら、まず家族の理解を得るにはどうしたらいいか、何をすべきかを考えるべきだ。

手前の事務所は全高4mなので、ガレージがいかに高いかわかる。自社施工なので依頼は本社から1時間以内に限定

ガレージのドアは鉄板で、門構えはドブ付けメッキ処理が施された天板。外板のウッドパネルと上手に融合！

ガレージ右側の窓が細長いのはプライバシー保護と盗難対策のため。基本は人の頭が入らない寸法で作る

内装はOSBと呼ばれる木チップの集成材を使用。ローコストであり、一枚一枚顔が違うので、味がある。一番奥は隠し扉となっていて、開けると8畳の部屋が登場。扉をガラスに交換すれば愛車を眺めながら過ごせる部屋になる

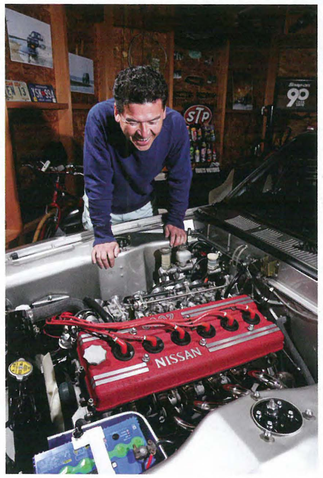


ガレージ内には椅子とテーブルを置き、時間があればクルマ雑誌を読んだり、ネットサーフィンでパーツを探しながら、ハコスカを眺めて過ごす。至福の時間が明日の活力になる

旧車に必須の排気ガス排出システムも自作で導入。ファンで強制的に屋外へ吸い出す

壁にポルシェ935のミニカーを貼り付け、ライトを当ててディスプレイ。センスと技が光る

ガレージ内にあるポスターや小物類は家を建てていただたお客さんにプレゼントする写真集の小道具としても使われる。もちろん、ディスプレイを含めてハコスカの部品も多数ストック。長く乗るための準備は欠かさない！



ハコスカGT-Rはなんとヤフーオークションで手に入れたというから驚き。Rの前もL型チューンのKGC10でかなりハコスカ惚れ込んでいる。乗ると疲れもふっ飛ぶという

岩橋建築：岩橋和雄代表(写真左)・里佳さん

「ガレージライフはアナログ生活の最終終着点。まずは思い描いた理想をぶつけてください。時間を掛けて一緒に男の城を作っていきましょう。ちなみにスローライフに最適な薪ストーブも取り扱っています」と岩橋代表

GARAGE DATA

所在地：愛知県半田市　構造：木造　規模：地上1階
延床面積：37.5㎡
築年数：5年
設計・監修：岩橋建築
電話：0569・27・7492　http://www.iwahashi-garage.com/
営業：9:00〜18:00 定休：日曜

●全国のGT-Rの棲み家の大募集

オーナーの憧れのであるガレージライフを応援する「GT-Rの棲み家」はまだまだ紹介できる物件が足りません。そこで「ウチの自慢のGT-Rガレージを誌面で見せたい」というオーナーを大募集！ オーナー自らの応募はもちろんですが、「当社が建築した、デザインしたとっておきのガレージハウスをぜひ紹介してほしい！」という建築事務所さんやハウスメーカーさんからの応募まで、自薦他薦は問いません。必ず封書にて①自慢のガレージハウスと愛車の写真、拘りやセールスポイントなどを明記して、〒・住所・氏名・年齢・電話番号（お持ちの場合は携帯電話）・取材希望日と連絡可能な時間などを記載いただき、編集部までご応募ください。なお、取材にお伺いする場合はこちらから連絡いたします。その際、日時、内容などを相談させていただいた上で、取材を決定させていただきます。皆様からたくさんのご応募お待ちしております。応募先：〒113-8524 ㈱交通タイムス社　GT-Rマガジン編集部　「GT-Rの棲み家」係まで

ガレージ内部。入口は狭いのだが、中は左右のドアを大きく開けられ、ぶつける心配もない。パネルはすべて耐力壁となっており、強度は十分。外に広がる力はすべての壁を電柱ワイヤーで繋ぐことで抑えている

家族の理解なくしてガレージハウスの成立なし

クルマ趣味を楽しむならばスペースは最低6m×3m

「ホームページにも書いていますが、わたしは建築とクルマをとことん楽しめれば、ほかには何も必要ありません。これは極端な例かもしれませんが、そこまでの覚悟で家族と向き合えば、考えてくれるのではないでしょうか。また、ガレージハウスは多くの場合、一般的な家を建てるよりも広い土地が必要です。建築費用はほぼ全国共通ですから、予算を抑えて理想のガレージハウスを求めるなら、土地代の安い場所への引っ越しも一つの選択でしょう」

家族の了承を得られたら、次は土地選び。可能な限り避けたいのは「正面の道路が左右方向に傾斜している」「前面道路の幅が狭い」物件。前者は雨水が入りやすく、段差ができやすい。傾きに合わせて継ぎ足しシャッターとなった場合は、バランスが悪く、壊れやすくなる。後者は狭ければ狭いほど車庫入れで切り返しが増えてしまう。特に限られた土地の場合は、注意したほうがいい。

内装に不燃材を使うなど、ガレージには多くの法的な決まりはあるが、そこはプロに委ねて問題なし。オーナーが頭に入れておくべきは、クルマ趣味を楽しむためにはどのくらいのスペースが必要かということだ。「1台を入れるのなら、最低縦6m×横3mは欲しいところです。このくらいあれば、普通サイズのクルマで、ある程度は普通に歩け、スタッドレスなどのタイヤくらいは保管できます。シャッターも規格内となりますから、費用も抑えられます」

ガレージハウスでもう一つ考えておきたいのが、ガレージは家の中なのか、外なのかという棲み分けだ。「基本は外と考え、断熱などを入れないほうが安くできます。ガレージは暑くて寒いもの。排ガスの臭いも気になり、シャッターを開けると埃やゴミも入ってきます。もし、愛車と一緒に過ごす感覚を味わいたいなら、リビングと隣接させたり、ガレージを眺められる書斎などを設けるほうが、居心地がいいはずです」

また、ガレージのドアはトータルコストを考えるとオーバースライダーを岩橋建築ではオススメしている。「シャッターは自分で自分を巻いているので、表面についた埃やゴミなどで傷付きやすいのです。さらに手動式は勢いよく上げ下げされるので、内部の部品などが壊れる場合が多いですね。オーバースライダーは上下にゆっくりスライドするのでシャッターと比べると壊れる要素が少ないです。価格は3倍ぐらいしますが、見た目とメンテの少なさを考えると元が取れると思います」

その他、後で手を加えるとお金のかかる窓の有無、防犯性を考えたサイズ、床の水はけや油汚れ対策など考えることはまだ多いが、一番大切なのは「ガレージハウスに何を求めているか」を明確に伝えることだ。「付け加えるなら、建てる人がクルマ好きであること。同じように見えても、クルマ好きなら視線、目線は絶対違います。個人的には『あの人わかってるな』と思ってもらえることを大事にしています」と岩橋代表。

ガレージハウス作りはクルマいじりと似ている。手を掛けてやればやるほど、いいものに仕上がる。そして、それをカタチにするのがその道のプロの仕事。「日本一クルマ好きの大工」がいる岩橋建築ならオーナーの気持ちまで含めて、ガレージの夢を形にしてくれるはずだ。